

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書 2023(令和5)年6月9日	
滋賀県知事 様	
提出者 住 所 滋賀県野洲市富波乙592番地 氏 名 株式会社 メディック 代表取締役 小林 亮 電話番号 077-587-3600	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 メディック
事業場の所在地	滋賀県野洲市富波乙592番地
計画期間	2023(令和5)年4月1日から2024(令和6)年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	保健衛生業
②事業の規模	
③従業員数	196人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	(感染性廃棄物) 感染性廃棄物・保管→ 収集運搬業者に委託 → 中間処理 (焼却) → 最終処分(埋立) (特別管理引火性廃油) 特別管理引火性廃油・保管→ 収集運搬業者に委託 → 中間処理 (焼却) → 最終処分(埋立)

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

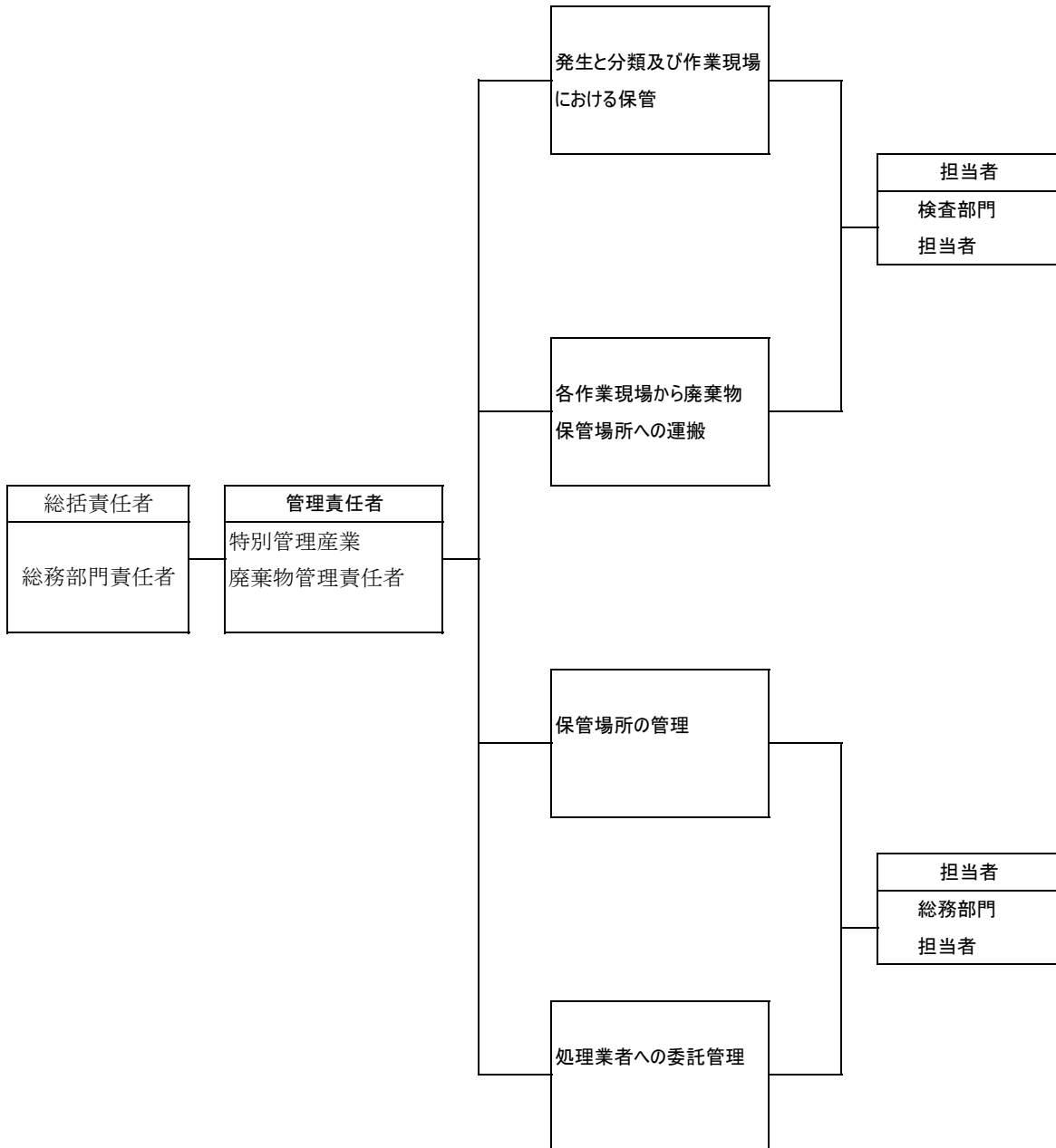
①現状	【前年度2022(令和4)年度実績】		
		感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	156.480 t	4.752 t
	当社の特別管理産業廃棄物である感染性廃棄物の発生量は、医療機関より受託する検体検査量により左右されるために発生量の削減の見通しは立てにくい状況である。よって、社内にて発生する一般廃棄物と産業廃棄物及び感染性廃棄物の分別徹底を実施。それに係る教育・指導の徹底を実施している。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	156.480 t	4.752 t
	(今後実施する予定の取組) 当社の特別管理産業廃棄物である感染性廃棄物の発生量は、医療機関より受託する検体検査量により左右されるために発生量の削減の見通しは立てにくい状況である。よって、現状維持として前年度の排出量を目標に設定して排出の抑制に努める。また、より一層の分別徹底を実施する。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 感染性廃棄物としては、受託する検体採取容器や検査員の感染予防手袋類等がある。分別に関しては、一般廃棄物専用と感染性廃棄物専用とを設置し感染性廃棄物専用にはバイオハザードマークが表記された専用ボックスに収集、常時、ふたがされた状態であり飛散防止対策を実行、収集業者委託時には完全密閉した状態にて提出。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 一般廃棄物と感染性廃棄物の分別の周知徹底と収集容器が環境に配慮されたものになるように情報収集に努める。

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度2022(令和4)年度実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度2022(令和4)年度実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度2022(令和4)年度実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度2022(令和4)年度実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	全処理委託量	156.480 t	4.752 t
	優良認定処理業者への処理委託量	156.480 t	4.752 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
安全衛生委員会等による社内巡回によるチェック、登録衛生検査所に対する県立入監査によるチェック、ISO認証機関への認証審査によるチェック。			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	全処理委託量	156.480 t	4.752 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	156.480 t	4.752 t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度2022(令和4)年度実績】		
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		161.232 t
	(今後実施する予定の取組) 一般廃棄物と感染性廃棄物の分別の周知徹底、適正排出方法についての指導 電子マニフェスト運用の継続		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。